



**2007年5月改訂(第2版)
2005年7月作成

貯法: 遮光保存
使用期限: 外箱に表示

アズレン含嗽液
アーズミンうがい液1%
Arzumine Gargle liquid 1%

日本標準商品分類番号	
87226	
承認番号	21700AMZ00033000
薬価収載	2005年7月
販売開始	2005年7月

◇組成・性状

販売名	アズレン含嗽液アーズミンうがい液1%
組成	1mL中: アズレンスルホン酸ナトリウム…10mg <添加物>グリセリン、エタノール、マクロゴール400、エデト酸ナトリウム、リン酸水素ナトリウム、無水リン酸二水素ナトリウム、 <i>l</i> -メントール、ハッカ油
性状	濃青色の液で、芳香がある。
pH	7.0~9.0

◇効能・効果

咽喉炎、扁桃炎、口内炎、急性歯肉炎、舌炎、口腔創傷

◇用法・用量

アズレンスルホン酸ナトリウムとして、1回4~6mg(約0.4~0.6mL又は約15~23滴)を適量(約100mL)の水又は微温湯に溶解し、1日数回含嗽する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

◇使用上の注意

(1) 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類 \ 頻度	頻度不明
口腔	口中のあれ、口腔・咽喉の刺激感

(2) 使用上の注意

抜歯後等の口腔創傷の場合、血餅の形成が阻害されると思われる時期には、はげしい洗口を避けさせること。

◇薬効薬理

(1) 実験的口内炎に対する創傷治癒促進作用

口腔内粘膜に酢酸を注入し惹起させた実験的口内炎に対し、アズレンスルホン酸ナトリウムは40 μg/mL以上の濃度で(ハムスター)¹⁾、本剤は200倍希釈液で(ハムスター)²⁾、有意に創傷治癒促進作用を認めている。

(2) 消炎作用

アズレンスルホン酸ナトリウムは、*in vitro*において白血球遊走阻止作用を認めるとともに、肥満細胞からのヒスタミン遊離抑制作用を示し、またカラゲニン、デキストラン等の各種起炎物質による浮腫、カラゲニン胸膜炎等、種々の実験的炎症を抑制することが知られている(ラット)^{3), 4)}。さらに、本剤は200倍希釈液

で、口腔内粘膜に酢酸を注入し誘発させた実験的モデルに対し、有意に毛細血管透過性亢進抑制作用を認めている(ラット)⁵⁾。アズレンスルホン酸ナトリウムの消炎作用機序は、下垂体-副腎系を介するものではなく、炎症組織に対する直接的な局所作用であると考えられている^{3), 6)}。

◇有効成分に関する理化学的知見

一般名: アズレンスルホン酸ナトリウム

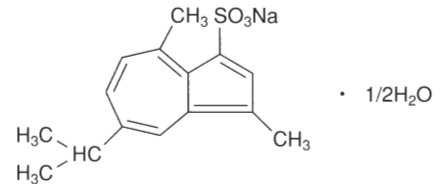
(Sodium Azulene Sulfonate)

化学名: Sodium 1,4-dimethyl-7-isopropylazulene-3-sulfonate semihydrate

分子式: C₁₅H₁₇NaO₃S · 1/2H₂O

分子量: 309.36

化学構造式:



性状: 本品は暗青色の結晶又は結晶性の粉末で、におい及び味はない。

本品はメタノールにやや溶けやすく、水又は酢酸(100)にやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、無水酢酸、ジエチルエーテル又はヘキサンにほとんど溶けない。

本品の水溶液(1→200)のpHは6.0~9.0である。本品は光により変化する。

◇包装

30mL×10

◇主要文献

- 1) 吉田博次ほか: 薬理と治療, 14(3), 1313(1986)
- 2) 社内資料
- 3) 柴田芳久ほか: 薬理と治療, 14(3), 1303(1986)
- 4) 宇田昭夫: 日薬理誌, 56(5), 1151(1960)
- 5) 社内資料
- 6) 山崎英正ほか: 日薬理誌, 54(2), 362(1958)

**◇文献請求先

本草製薬株式会社 学術部

〒468-0046 名古屋市天白区古川町125番地